

第3章

『北越商工便覧』にみる商家

第3章 『北越商工便覧』にみる商家

3-1 『北越商工便覧』について

『北越商工便覧』は明治期に発行された商工便覧のひとつで、主に現在の新潟地方の商家が紹介されている。横長の銅版画の冊子本で右綴の体裁をとる。明治22年の発行であり、川崎源太郎の編集にかかる。掲載数は全体で359軒あり、そのうち高田地域は82軒、直江津地域は52軒、新潟地域は114軒、長岡地域は62軒、三條地域は19軒、それ以外の地域は合わせて30軒である。今回の調査対象である高田地区及び直江津地区の当時の景観を知る貴重な資料と考えられる。

そもそも『商工便覧』とは当時の商工業の様子や地域の名所などを紹介するもので、地域ごとにまとめられ、ほぼ全国で発行されている。明治15年から25年までに発行された絵入りの商工便覧をまとめた『絵で見る明治商工便覧』（1987年発行、ゆまに書房・全10巻）には全部で40編の商工便覧が掲載されているが、そのうち15編を川崎源太郎氏が編集している。川崎源太郎が編集した他の商工便覧には、『住吉堺名所並豪商案内記』（明治16年）『福井県下商工便覧』（明治20年）『山陰道商工便覧』（明治20年）『愛知県下商工便覧』（明治21年）などがあり、広範囲に渡っている。

以下、明治中期の高田、直江津の状況を知ることのできる有力な絵画資料として『北越商工便覧』を分析する。これにより、現在既に失われた大型の商家群の姿をよく知ることができる。

3-2 商家の業種

3-2-1 高田地区

『北越商工便覧』（以下『商工便覧』と略す）に掲載された店舗のうち、高田町にあるものを抜き出し、業種別に分類し、地図上にプロットした（図3-1）。また、高田における明治期の商

工業分布についての資料として、明治39年に発行された『越後高田町商業地図』を併せて使用した。

（1）全体の特徴

表3-1に高田地区の業種別商家数を示した。代表的な業種として石油精製業、酒関係、飴屋、宿・料亭、小間物類などが挙げられる。

『商工便覧』に掲載された商家の分布を見ると、業種に関わらず、本町に多くの商家が集まっており、逆に善光寺町、長門町、中屋敷町の一帯（現在の東本町1～3丁目）の商家は1軒も掲載されていないことがわかる。また、両替町から上紺屋町にかけての地域（現在の仲町2、3丁目）についても1軒の掲載も確認されなかったが、この地域は前出の『越後高田町商業地図』にも掲載されていないため、商業地域として認識されていなかったと思われる。

表3-1 『北越商工便覧』業種別商家数（高田地区）

業種	本町	仲町	南本町	東本町	その他	合計
石油	0	0	0	5	0	5
貨物取扱	0	2	0	0	0	2
宿・料亭	1	5	0	0	2	8
小間物・文房具	10	0	1	0	0	11
書籍	3	0	0	1	0	4
呉服・染物	3	0	2	2	4	11
薬	1	0	1	2	0	4
酒類	2	1	2	1	3	9
飴屋	4	0	1	0	1	6
醤油・味噌	0	2	1	1	1	5
油・蠟・砂糖	3	0	0	2	0	5
その他の食品	3	1	1	0	0	5
その他	3	0	2	2	0	7
合計	33	11	11	16	11	82

（2）業種別分類

そもそも高田では、近世に町方において特定業種の営業を特定の町に限定する、いわゆる「町座制」が行われていた。同業者が集中すること



図3-2 高田製油社（敷地内部の様子が細かく描かれている）

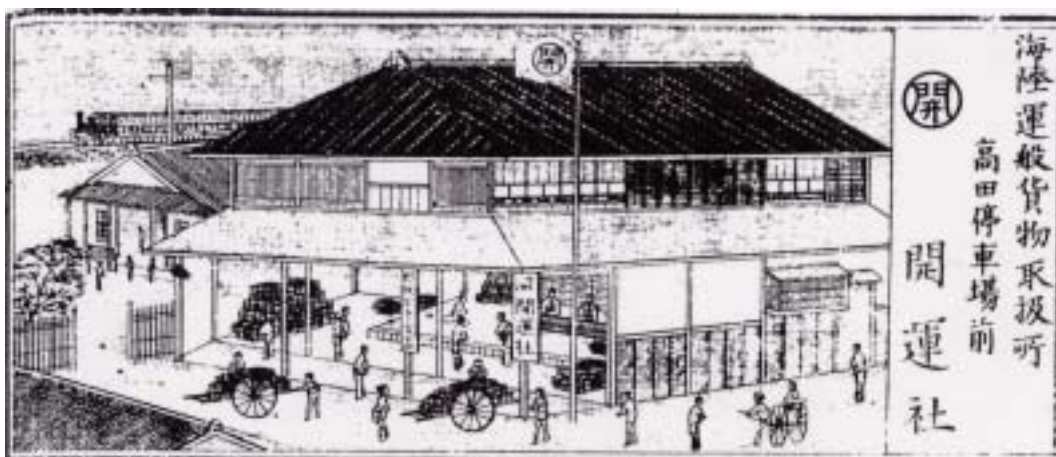


図3-3 開運社（貨物取扱業・奥に汽車が走っている）



図3-4 圓山亭（割烹料理・表に庭があり、奥に汽車が走っている）

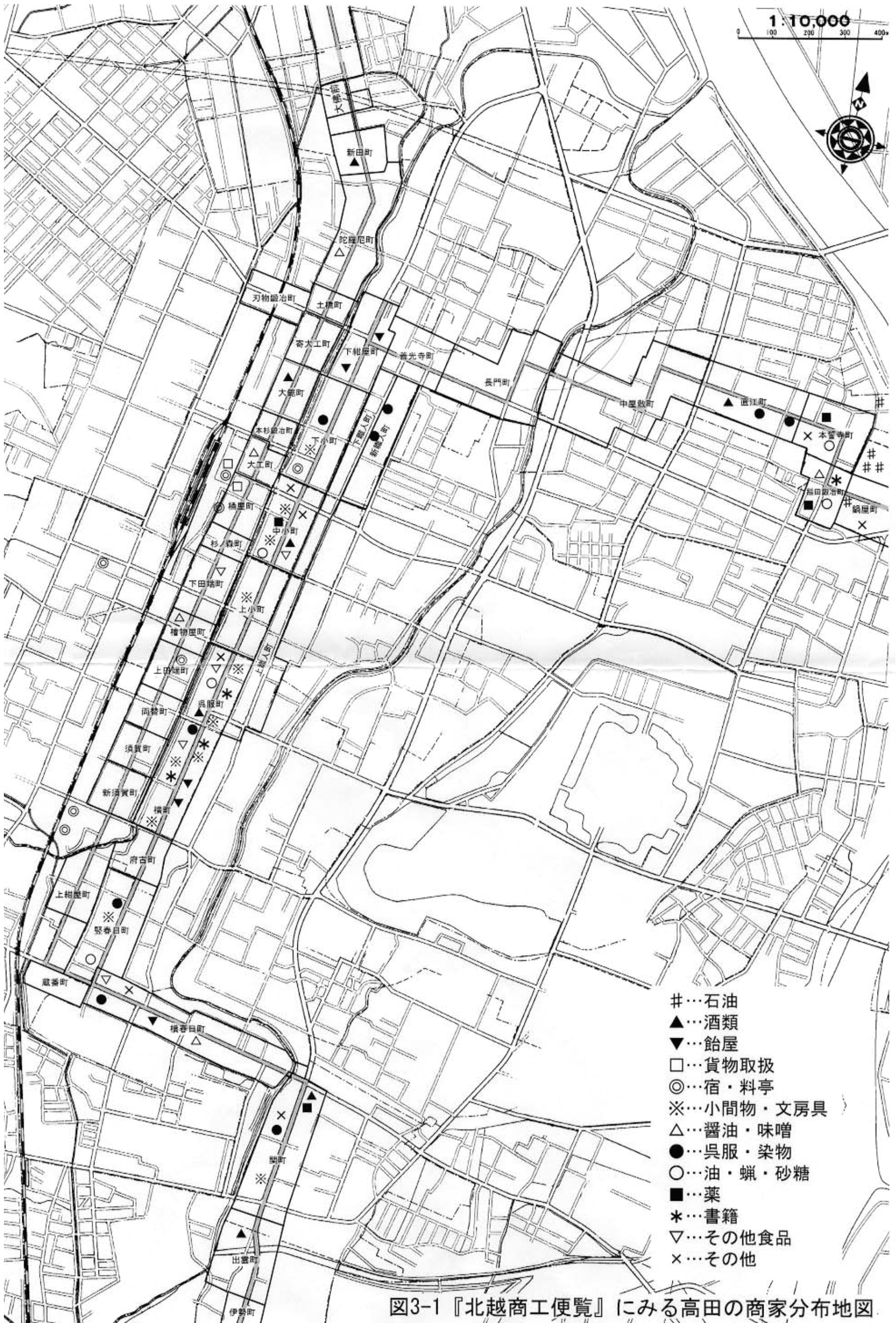


図3-1 『北越商工便覧』にみる高田の商家分布地図

は、資材の流通や仲間の統制の上にも都合が良かった。町座制は時代が下がるにつれ次第に崩れていったが、その影響は明治期に入っても残っており、『越後高田町商業地図』を見ると、町名から連想される業種の店舗がやはり多く残っている。たとえば、桶屋町ではその名の通り桶屋が名を連ね、また寄大工町から大工町にかけては大工が多く居住している。しかし、業種によっては必ずしもそのとおりではない。以下において、『商工便覧』の時代における高田の業種による分布の特徴をみていくことにする。

< 石油 >

石油精製業は高田の重要な産業のひとつであった。原油は現板倉村、菅原村から運ばれていた。採油は上杉時代からはじまったと伝えられている。明治6年に鍋屋町の裏に作られた石油精製所が最初(後に廃業)で、明治10年代には石油ブームが到来し、新聞に石油の話題が載らなかった日はなかったそうである。『商工便覧』に掲載された軒数は全部で5軒であるが、その全てが鍋屋町周辺である。中心的な高田製油社(図3-2)はその敷地内部が見開きの2紙を用いて描かれており、当時の石油精製業の様子を伝える貴重な資料である。

< 貨物取扱 >

2軒しか確認できなかったが、いずれも高田駅前にある。業務上、必然的な場所であろう。絵を見ると、奥に煙を吐いて走る汽車が描かれている点は興味深い(図3-3)。

< 宿・料亭 >

地図にプロットできたのは6軒である。そのうち善導寺前の圓山亭以外は、高田駅前を含む現在の仲町にあたる地域に存在する。描かれた絵(図3-4)を見ると、それらのうち多くの宿、料亭に広い庭が存在する。高田藩時代の地図をみると、線路が通っている地域はかつての武家地であり、明治期に存在した宿・料亭の中には、武家屋敷を転用したために広い庭を持っているものもあったのではないかと推察される。貨物

取扱業同様、高田駅の前にある数軒では、奥に走行中の汽車が確認でき、駅のすぐ近くであるということが強調されている。

< 小間物・文房具 >

地図上には12軒がプロットされた。その分布は、本町通りを中心としており、現在の仲町や東本町には確認できなかった。このことから、日常に必要な小さなものや、筆や紙などの文房具類は本町、南本町で盛んに販売されていたといえる。

< 酒類 >

全部で9軒確認された。他の業種に比べ、全地域に平均的に分散している。清酒のみを扱う店もあるが、梅酒や焼酎などを扱っている例もあった。

< 飴屋 >

飴・菓子製造の商家は6軒確認され、大杉飴屋以外の5軒が地図上にプロットされた。現在の本町に集中し、高橋飴屋を除くと、東本町、南本町、仲町には確認されなかった。大杉飴屋での聞き取り調査の際に「参勤交代の時、通り道である旧街道沿いに、多くの飴屋があった」という話を聞くことができたが、明治期になると、大杉屋近くの旧街道沿いには大店の飴屋はなくなり、現在の本町にあたる地域が商業の中心だったことがうかがえる。

< 醤油・味噌 >

全部で5軒確認された。比較的分散しているようであるが、本町通りに1軒もないことがわかる。『越後高田町商業地図』と比較してみても、この地域には醤油醸造を主とする商家は見受けられない。

(3) 各町の特徴

以上、大きな特徴が見られる業種を中心に考察した。次に、各町ごとに業種別の傾向を述べる。

< 本町 >

本町は商業活動の中心地区である。貨物取扱、

宿・料亭、石油など特に広い敷地を必要とするものの以外の業種の商家は、本町に多く集まっている。『越後高田町商業地図』をみると、工業関係（左官、大工などのいわゆる職人関係）よりも、商業関係の商家が多く名を連ねている。

< 仲町 >

業種が限定されていて、地利を生かしたものが多く。鉄道が通ったことによっておそらく最もその性質が激変した地区であろう。

「町座制」の名残が強く現れている地域で、江戸時代、町方によって鮮魚の取扱が許されていたことのある田端町の場合、『越後高田町商業地図』の時点でも多くの魚屋が存在し、同時に料理屋も多い。

< 南本町 >

本町から南に続く地域で、さまざまな業種が分散している。しかし、町の中心である駅前や、本町から離れているという点で、『商工便覧』に掲載されるような大店が少ない原因となっているのであろう。

< 東本町 >

前述したとおり、現在の東本町1～3丁目の地域は『商工便覧』に掲載がないことはとても興味深いことである。おそらくこの地域のみ『商工便覧』に掲載されなかった何らかの理由が存在するのではないだろうか。『越後高田町商業地図』と比較してみても、決してこの地域に大店が存在していなかったわけではなく、むしろ

農家が多いことから、商業地域として発展していなかったと考えるべきであろうか。

直江町から東にかけては石油業を中心に大店が確認される。

以上が高田地区の分布についての考察である。今回参考として利用した『越後高田町商業地図』は、1軒ごとに業種が記述されている貴重な資料であり、改めて研究の機会を持ちたいと思う。

3-2-2 直江津地区

直江津地区には全部で25軒の商家が掲載されている。所在地を特定できない商家も数軒あったが、それ以外の所在地区の明確なものは大きく以下の4つの地域に分けられる。

< 直江津港 >

全25軒のうち半分以上が回漕問屋である。絵には奥に海や船が描かれている例が多数ある（図3-5）。

< 直江津停車場前 >

6軒確認され、そのうち3軒が貨物取扱である。これは高田地区と同様に、業務上必然的な場所である。

< 五智 >

この地域は6軒確認され、大きな庭を持つ料亭や宿などを経営している。

< 新井駅 >

3軒のみなので具体的なことは言えないが、

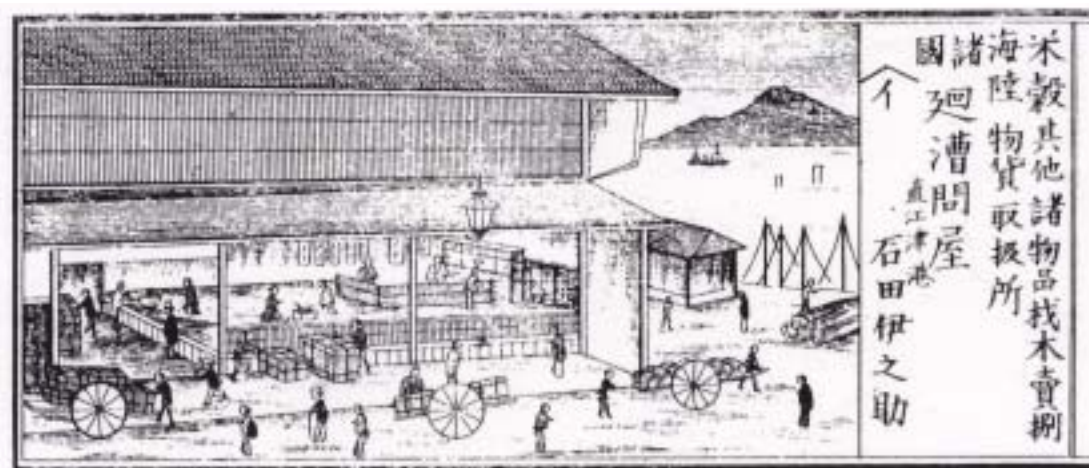


図3-5 石田伊之助（直江津、回漕問屋・奥に海と船が描かれている）

酒造の大手が集まっている。

直江津地区の掲載された商家の業種が海運業に偏っていることが特徴である。近世に城が高田へ移ると、藩が商家を高田に誘致し、高田商人に特権を与えたため、直江津の商業が衰微したという。近代になってからも、商工業の発達において両町に開きがあった感は否めないが、高田にはない港湾を利用することで、海運業の町として発展していた直江津の姿が『商工便覧』からはうかがえる。

以上の事より、高田と直江津を比較すると、高田は小売業を中心とした街で、直江津は海運業や問屋業を中心とした街であるという特徴が読み取れる。

3-3 描かれた建物

『商工便覧』の版画から当時の上越地域の商家の姿を検討する。まず、間口の間数と古写真との比較、最後にそこから見えてくる町並の様子についてまとめた。

3-3-1 間口の間数

間口の間数を柱の本数などから推定し、それを表 3-2 にまとめた。

この表 3-2 より、高田の町全体としては、間口 4 間、5 間の店が多く描かれるが、仲町では 3 間から 8 間の間口の商家が均等に見られる。さらに仲町には、広い庭を持つ料亭があり、その場合面路している建物のみ間数を数えたため、実際はこの表 3-2 の数字より広い敷地を持つ店が多い。これは、『高田市史』所載の地図(松平中将時代の高田図)によると、仲町辺りは江戸時代に武家地だったので、土地が細分化されなかったためだと考えられる。また、中心街から少し外れた南本町に 8 間以上の商家が多い。

直江津の場合も同様に間数 4 間、5 間の店が多いが、高田と比較してみると間口 8 間や 9 間の店の割合が高いことが分かる。

3-3-2 古写真との比較

(1) 外観

表 3-7 に、古写真が残っているものを示した。『商工便覧』は明治 22 年に出版されたもので、およそそのころに描かれた商家の姿を示している。従って、写真の撮影年代によっては、その様子が全く違うものもある。例えば、下小町(現本町 7 丁目)にある多田西洋小間物店(図 3-6)は明治 33 年に焼失し、写真の姿になった。他にも姿が変わっているものは、石橋飴店、中野時計店(茶町、現本町 2・3 丁目)、図 3-7 の吉田西洋小間物店(春日町、現本町 1 丁目)協盛社(田端町、現仲町 3 丁目)がある。火災等によって建替えがなされたのだろう。

反対に、古写真とほぼ同じ姿で描かれているものもある。丸山和洋呉服店(図 3-8)(呉服町、現本町 3 丁目)と高橋飴店(図 3-9)(春日町、現南本町 3 丁目)である。丸山呉服店は 2 階のアーチ型のガラス窓が特徴的な建物である。その姿は、『商工便覧』と大正 8 年撮影の古写真両方に見ることができるが、ただし窓の棧の形など細部に異同が見られる。また、屋根の上部が描かれていないため、明り採りも見られない。

『商工便覧』には、屋根の上部が描かれていない店が多い。

高陽館(図 3-10)(相生町、現在仲町 2 丁目)を見てみると、『商工便覧』に描かれた 3 階建の観覧所が二枚の写真に写っている。ただ、『商工便覧』に描かれている屋上の立派な鯨飾りは写っていない。写真の撮影年代は分からないが、おそらく『商工便覧』より後のものであろうから、それまでに取り去られたものと推測できる。

(2) 屋根の葺材

『商工便覧』では屋根の葺材は明らかに 3 種類に描き分けられている。それを A、B、C と分類した。A は縦横に細かい線を入れているもの、B は黒く塗りつぶされ、白い縦線が入っているもの、C は横に細かい線が入っているもの

表3-2 『北越商工便覧』に見る町別の職種分類と間口の間数

		(高田)							合計
町名	職種	3間	4間	5間	6間	7間	8間	9間	合計
北本町	酒					1			1
	醤油		1						1
	合計	0	1	0	0	1	0	0	2
本町	呉服		2		1				3
	茶	1	1	1					3
	金物		1	1					2
	小間物	1	3	1					5
	油・蠟・砂糖			1		2			3
	蠶甲			1					1
	酒			1		1			2
	薬		1						1
	理髪		1						1
	書籍				2	1			3
	文房具	1	1		1				3
	時計			1					1
	館		3	1					4
	宿					1		1	2
合計		3	13	10	4	3	0	1	34
東本町	石油		2	1	1				4
	鋳物			1					1
	ガラス			1					1
	薬		1	1					2
	油・蠟・砂糖		1		1				2
	酒					1			1
	染物			1					1
	呉服				1				1
	醤油				1				1
	書籍			1					1
精油所(広い庭)								1	
合計		0	4	6	4	1	0	0	16
南本町	陶器			1			1		2
	館			1					1
	味噌		1						1
	ガラス			1					1
	薬				1				1
	文房具				1				1
	酒		1				1		2
	呉服						1		1
	乾物		1						1
	合計		0	3	3	2	0	2	1
仲町	貨物取扱	1		1					2
	料亭(広い庭)	2	1		1				5
	醤油				1	1			2
	酒				1				1
	鮮魚						1		1
	合計	1	2	2	2	2	1	0	11
寺町	料亭(広い庭)								1
大町	染物			1	1				2
その他	酒			1		1			2
	綿糸			2					2
	館		1						1
	合計	0	1	3	0	1	0	0	5
合計		4	24	25	13	8	3	2	82

		(直江津・その他)							合計
町名	職種	3間	4間	5間	6間	7間	8間	9間	合計
直江津港	回漕問屋		6	4	1	1		1	13
	宿・料理				2	1	1		4
	蠟・砂糖		1	1					2
	和・漢・洋酒				1				1
	共同商会			1					1
	米穀		1	1					2
	陶器				1				1
	材木		1						1
	諸品委託販売	1							1
	合計	1	9	7	5	2	1	1	26
直江津停車場前	貨物取扱	1	1						3
	休息所		1						2
	料理・宿(庭)						1		1
	合計	1	2	0	0	0	1	0	6
五智	料理・宿(庭)	1		1					6
新井駅	書籍				1				1
	酒	1				1		1	3
	合計	1	0	0	1	1	0	1	4
中頸城郡	酒		2		1				3
	雑穀・水車			1					1
	醤油・味噌			1					1
	漆								1
	煙草		1						1
	合計	0	3	2	1	0	0	0	7
その他	塩		1						1
	漁商会社			1					1
	料亭								1
	合計	0	1	1	0	0	0	0	3
合計		4	15	11	7	3	2	2	52

(注1) 高田の旧町名と現在の町名との対比

- 北
本町：紺屋町・下小町・中小町・上小町・呉服町・上呉
茶町・横町・豎春日町・春日町の一部
- 東本町：直江町・本誓寺町・稲田鍛冶町・鍋屋町
- 南本町：春日町・横春日町・鬮
- 仲町：高田停車場前・本大工町・大鋸町・檜物屋町
田端町・上田端町・相生町
- 大町：下職人町・新職人町

(注2)

広い庭がある商家で、間口の間数を数えることのできなかつたものは、間数の欄には書いていないが、縦列の合計の欄には算入してある。

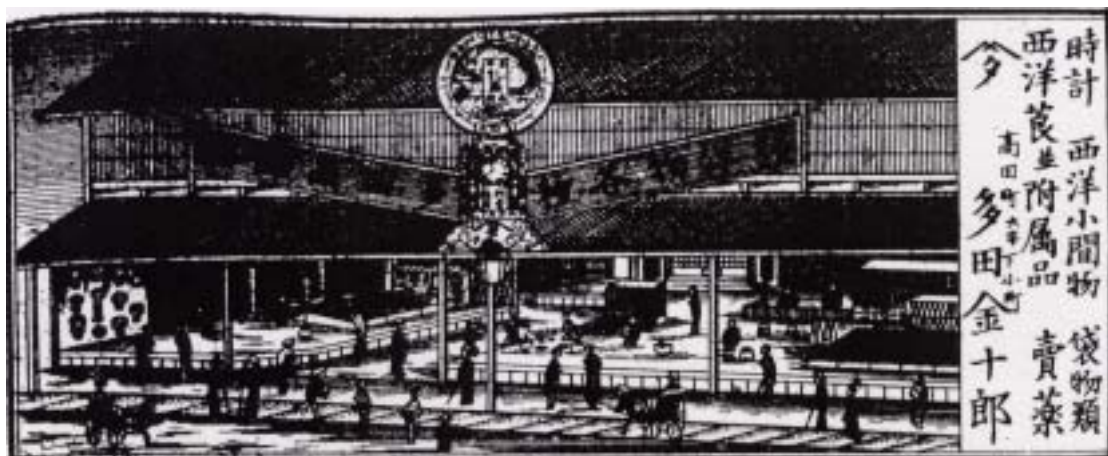
である。その結果は表 3-7 に示した。A は瓦葺、B と C は板葺のようにみえる。また、当時の写真より、図 3-11 の高田駅舎の屋根の葺材が A、雁木の葺材が B、図 3-11 の雁木の葺材が C に当たると考えられる。特に B、C の屋根の町家は高田以外ではほとんど見られない。

丸山呉服店は、『商工便覧』では屋根、雁木両方とも A、写真では屋根は板葺、雁木は瓦葺となっている。高橋飴店では『商工便覧』では屋根は B、雁木は C で、写真では両方とも板葺となっている。18 世紀中期の建物を現在も使用している今井染物店（図 3-12）（新職人町、現在大町）について見ると、『商工便覧』では B（板葺）となっているが、現状からは当時は板葺であったと推測される（現在は鉄板葺）。これを見

ると、実際の葺材の代りに瓦を絵師に描いてもらい、立派に見せようとした店もあったと推測できる。

しかし、高陽館観覧所は、『商工便覧』では B、写真では瓦である。実際の姿より絵の方が粗末な造りになっている。高陽館は写真撮影される前に葺材の改変があったのかもしれない。

このように細かい点に異同があるが、丸山呉服店も高橋飴店も今井染物店もかなり正確に描かれているといえる。『商工便覧』に描かれている商家から、明治 20 年ごろにおける町並の大きな様子を把握することはできるであろう。屋根材に関しては、高田では板葺の町家が多かったということを言えるのではないだろうか。



（『北越商工便覧』より）



大正 4 年撮影写真
（『写真集 ふるさとの百年 上越』（新潟日報事業社）より転載）

図 3 6 多田金十郎(西洋小間物)

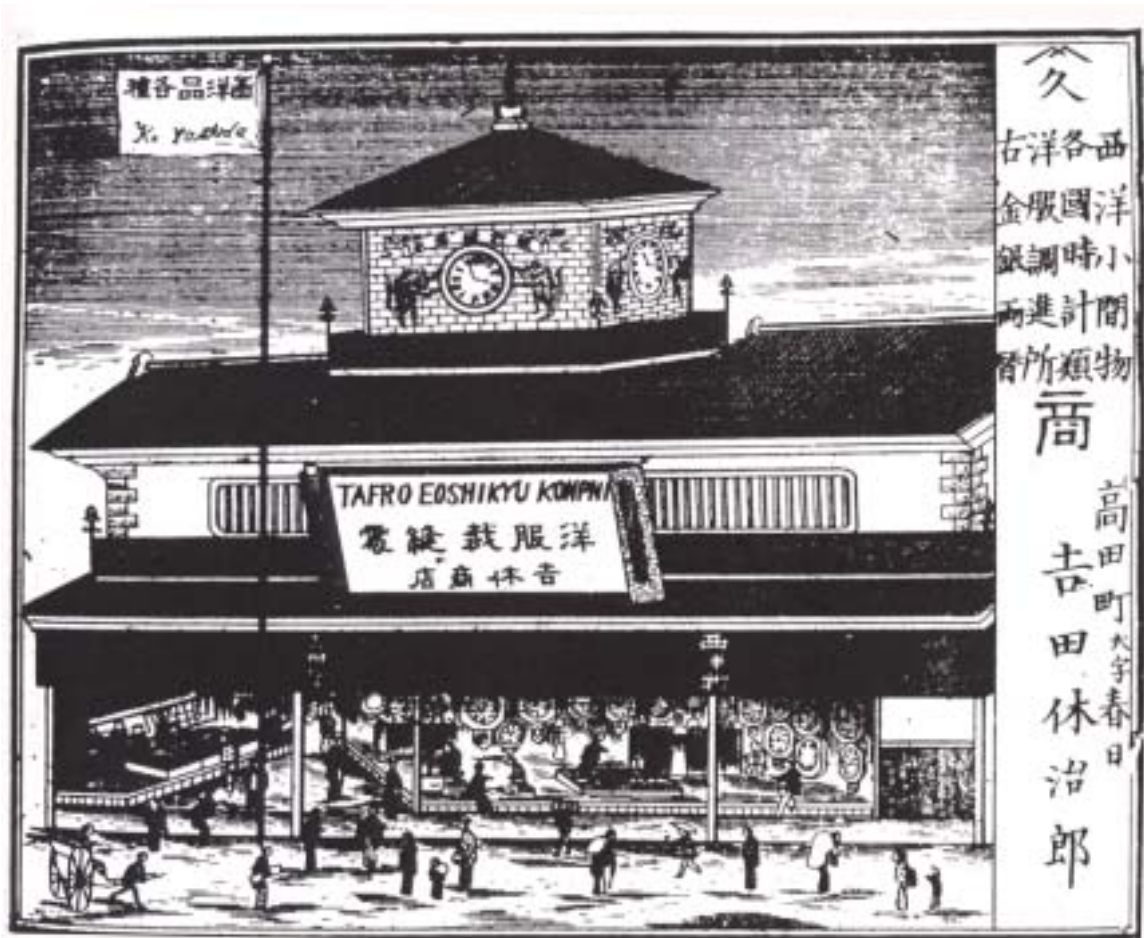
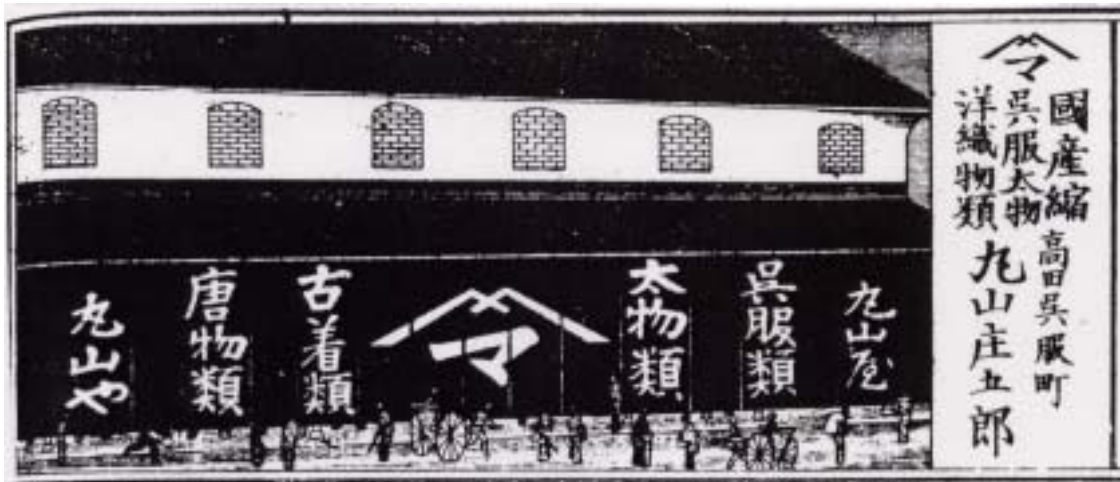


图 3-7 吉田休治郎（西洋小間物）

（『北越商工便覧』より）



(『北越商工便覧』より)



大正4年撮影写真
(『写真集 ふるさとの百年 上越』(新潟日報事業社)より転載)

図3-8 丸山庄五郎(和洋呉服)



(『北越商工便覧』より)



(『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 高田・直江津』(国書刊行会)より転載)

図3-9 高橋孫左衛門(飴)



(『北越商工便覧』より)



(『写真集 ふるさとの百年 上越』
(新潟日報事業社)より転載)

図 3-10 高陽館(料亭)



上越市市史編さん室所蔵写真より



(『ふるさとの思い出写真集 明治大正昭和 高田・直江津』(国書刊行会)より転載)

図 3-11 屋根の葺材



(『北越商工便覧』より)



(現状)

図 3-12 今井清蔵(染物)

3-3-3 町並の姿

(1) 雁木の形

表 3-3 は、造り込み雁木の数をまとめたものである。また、この章の表は全て、表 3-7 を基に作っているの、そちらも参照していただきたい。

表 3-3 造り込み雁木を持つ商家

(高田)			(直江津)		
町名	旧町名	数	旧町名	数	
北本町	新田町	1	直江津港	1	
東本町	直江町	3	五智	1	
	本誓寺町	2	新井駅	2	
	稲田鍛冶町	3	中頸城郡	1	
	鍋屋町	3	合計	5	
南本町	横春日町	1			
仲町	本大工町	1			
	大鋸町	1			
大町	新職人町	1			
その他		1			
	土橋村	1			
合計		18			

この表 3-3 で高田を見てみると、造り込み式雁木は、東本町に多く描かれ、本町には全く見られないことが分かる。江戸時代からの大火の記録(『地域の災害履歴情報の住宅・住宅地開発への活用に関する研究』)によると、本町は何度も大火に遭っており、建替えが多かったと推測される。東本町では大火の記録はないので、古い町家が多く残っていたと思われる。造り込み式雁木は落し式雁木よりも古い形式ということが一般に言われているが、このことから確認できる。直江津では造り込み式雁木の残っている割合が低い。それは、直江津では建物の建替えが頻繁に行われたことによるとと思われる。

(2) 卯達(うだつ)

表 3-4 を見てみると、本町にとっても多く、他の町は少ない。また、直江津港にも多い。火事の多い地域に集中していることから、高田や直江津でも、卯達が防火に効果があると考えられていたことが推測できる。また、卯達の多い地域が、町の中心である。よって、卯達が防火壁としての役割が期待されると同時に、富の象徴

として造られたとも考えられる。本町や直江津港は、落し式雁木と卯達の新しい町家が並んでいたのだろう。

表 3-4 卯建を持つ商家

(高田)			(直江津)		
町名	旧町名	数	旧町名	数	
本町	下小町	1	直江津港	10	
	中小町	5	中頸城郡	1	
	上小町	1	合計	11	
	呉服町	4			
	上呉服町	1			
	茶町	1			
	横町	1			
	豎春日町	1			
	東本町	稲田鍛冶町	1		
	南本町	春日町	3		
仲町	田端町	1			
その他		1			
合計		21			

(3) 西洋的要素

表 3-5 「西洋的要素のある商家」の高田の表で、網がかかっている店は西洋の品物を扱っている店か、石油のように明治期になって盛んになった業種の店である。表 3-6 「西洋の品物を扱う商家」の網がけした店と共通している。

表 3-5 西洋的要素のある商家

(高田)			
町名	旧町名	店名	西洋的要素
本町 (6)	下紺屋町	澤田(飴)	背後にレンガ造煙突二本
	下小町	多田(西洋小間物)	店前にガス灯
		丸山(和洋呉服)	アーチ型ガラス窓
	呉服町	本間(理髪)	店前に理髪店の標識のポール
	茶町	中野(時計)	看板上の時計
	春日町	吉田(西洋小間物)	時計塔、壁のコーナーに石
		三友館(旅館)	上部がアーチのガラス窓
東本町 (3)	鍋屋町	川村(石油)	二階にガラス窓
		馬場(石油)	二階にガラス窓
		石油製造所	よるい戸付きガラス窓
南本町 (2)	関町	八つ滝醸造本舗(酒)	レンガの煙突二本
	出雲町	酒造改良試験所	レンガの煙突一本、ガラス窓
仲町 (3)	停車場前	夕月楼(料亭)	雁木にガス灯
		開運社(貨物取扱)	旗
		高運社(貨物取扱)	雁木にガス灯、旗
	本大工町	上田(醤油醸造)	屋根上に(天窓上?)にレンガ煙突
	田端町	協盛社(鮮魚四十物)	ガス灯
	上田端町	山口(料亭)	ガス灯
	相生町	柳絲卿(料亭)	金属の煙突
高陽館(料亭、西洋料理)		高層、ポーチ、ベランダ	

(直江津、その他)

町名	店名	西洋的要素	
直江津港(11)	金井(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	石田(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	小林(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	伊藤(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	水島(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	小杉(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	石塚(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	尾津(回漕問屋)	雁木にガス灯	
	金谷楼(宿、料理)	ガス灯	
	古川(宿)	雁木にガス灯	
	みか屋(宿、料理)	雁木にガス灯	
	停車場前(5)	中牛馬会社(貨物取扱)	雁木にガス灯、旗
		内国通運会社直江津支店	レンガ造 2 階建、旗、鉄柵、門上にガス灯
便利館(休息所)		ベランダ	
開運組(貨物取扱、為替)		旗	
枯葉館(宿、料理)		ガス灯	
五智(4)	瀚海楼(宿、料理)	ガス灯、旗	
	清水屋(宿、料理)	旗	
	清風軒(宿、料理)	旗	
	山田津八郎(宿、料理)	柱にガス灯	
新井駅(1)	相場(酒)	レンガ煙突	
その他(1)	三亩楼(料亭)	ガス灯、旗	

表 3-5 から、高田ではガラス窓やレンガ造の煙突などの洋風建築の要素が加えられる例が多い。一方、直江津ではガス灯や旗など建築以外の要素が多く見られていたと言える。雁木とガス灯の組合せは、直江津港の回漕問屋のトレードマークのようである。高田では描かれたガス灯のほとんどが仲町に集中しているのに対して、直江津では全体にガス灯が分布している。

表 3-6 西洋の品物を扱う商家

(高田)

町名	旧町名	店名
本町(10)	下小町	多田(西洋小間物)
		小川(和洋金物)
	中小町	陶山(和漢洋薬)
		宮澤(和洋小間物)
		丸山(和洋呉服)
	呉服町	森(和洋酒、陶器)
		中野(時計)
	茶町	神林(西洋小間物)
	横町	八木屋(和洋呉服)
	豎春日町	吉田(西洋小間物)
東本町(3)	直江町	白川(和洋呉服)
	本誓寺町	内藤(薬、洋酒)
		野田(ガラス)
	鍋屋町	野田(石油)
		川村(石油)
		馬場(石油)
		太平社(石油、油)
南本町(2)	春日町	寺崎(和洋呉服)
関町	玻璃商会(ガラス)	
仲町(2)	停車場前	清養亭(料亭、和洋銘酒)
	相生町	高陽館(料亭、西洋料理)

(直江津、その他)

旧町名	店名
直江津港	越前屋(和漢洋酒)

一方、『商工便覧』に描かれている西洋の品物を扱う店は、直江津では1軒、高田では22軒である。このことから高田の消費地という性格を確認する事ができる。

(4) 雁木の続き方

高田も直江津も雁木の町であるが、『商工便覧』を見てみると、両方の町での雁木の様子に違いがあることに気づく。『商工便覧』に描かれた高田の町家では、全ての町家に雁木がつけられ、隣の町家の雁木ともスムーズに接続している。一方、直江津では、五智駅にある山田屋文造の料亭(図 3-13)のように、雁木の一部に部屋をせり出す例がある。山田屋の隣には蔵があり、雁木が作られていないため、雁木が通行できても特に意味もないと考えたのだろう。停車場前の開運組(図 3-14)では、両側の建物が前にせり出しているため、雁木の両端がふさがれている。これと同様な例が、新井駅の池田酒店や停車場前の中牛馬会社にも見られる。面白い例が、新井駅の早津書店(図 3-15)にある。基本は、造り込み式雁木なのだが、左側に部屋が造られているのでふさがれてしまっている。そこでふさがれている部分の前にさらに、落し式雁木をかけているのである。

これらのような、一部が建物でふさがれた雁木は中心地の直江津港の町家では描かれず、郊外に多く見られる。郊外では隣棟間隔が大きいため、雁木を連続させる事ができない。

表 2 階の階高が低く窓がない町家は、停車場前に3軒、新井駅に1軒ある。一方、直江津港の町家は、階高の高い2階建てで、落し式の雁木が連続し、卯達も多い。直江津港の整然とした町並を想像できる。

また、雁木が途切れる所で、雁木の妻側の処

理の仕方として、次の3種類を指摘できる。

1. 何もしない(図3-16 小林回漕問屋)
2. 下見壁で2方向から塞ぐ(図3-17 共同商会)
3. 土壁で塞ぐ(図3-18 古川回漕問屋と石田回漕問屋)

共同商会は海際に建っているため、2の方法は例外的なものだろう。3の雁木の端を土壁で塞ぐ方法は、漁商会社も行っている。通行に不便だが、風雪を防ぐのには効果がありそうなので、よくある方法だったのかもしれない。

(5) 屋根の葺材

高田には瓦葺と思われるAの屋根は少ないが、直江津では全ての商家がAの屋根である。この結果は、直江津では明治40年に出された家屋制限例(第2章参照)に先だって、瓦葺化が進められていたということを示している。



图 3-13 山田屋文造（宿、料理）



图 3-14 開運組本店（貨物取扱）



图 3-15 早津善作（書籍）

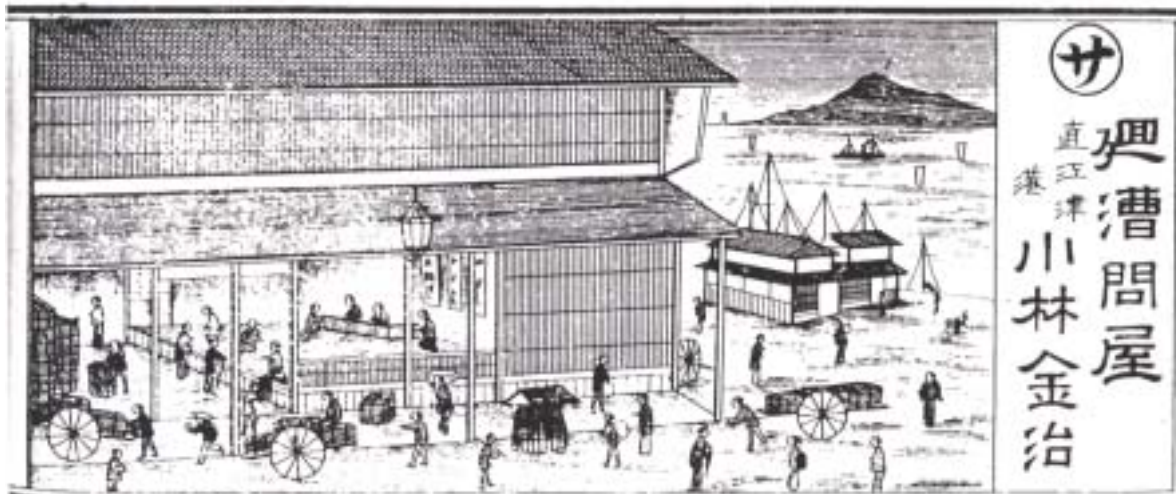


图 3-16 小林金治（回漕問屋）



图 3-17 共同商会



图 3-18 古川長四郎（回漕問屋）

表3-7 『北越商工便覧』に見る高田、直江津の商家一覧

(高田1)

町名	旧町名	店名	一階	二階(屋根材)	雁木(屋根材)	その他(屋根材)	古写真
北本町	新田町	大井酒類製造所	一部開放	(B)	造り込み式(窓なし、下半は下見、上半は土)	越屋根型明り取り(A)	
	陀羅尼町	地内(醤油)	一部開放	全面格子窓(B)	落とし式(B)	大きめのバラベツ型明り取り(A)	
本町	下紺屋町	澤田(飴)	全面開放	全面格子窓、雁木上に(B)	落とし式(C)	背後にレンガ造煙突二本	
		小林(飴)	左の半間以外開放	下見壁と格子窓(B)	落とし式(C)		
	下小町	多田(西洋小間物)	全面開放	全面格子窓(A)	落とし式(A)	店前にガス灯、	百111
		つぼや(宿)	全面開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)		
		和洋布商会	1間のみ開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)		
	中小町	小川(和洋金物)	右1間以外開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)		
		海老屋(小間物)	全面開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(A)		
		白銀屋(酒)	左1間以外開放	下見壁と障子窓(B)	落とし式(B)	妻入、角家	
		石沢(蟹甲)	中央を除いて大暖簾	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(C)		
		沖(茶)	左1間以外開放	中央に格子窓、土壁(A)	落とし式(C)		
		陶山(和漢洋薬)	全面開放	全面格子窓、うだつ、雁木上に大看板(A)	落とし式(C)		
		宮澤(和洋小間物)	左1間以外開放、中央に大暖簾	全面格子窓(B)	落とし式(B)		
	上小町	高田蠟砂糖商会出張店	1間のみ開放	土壁、窓なし(B)	落とし式(C)	本店は直江津港	
	呉服町	須坂(紙)	中央に大暖簾、全面開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(B)		
		老沼(茶)	全面開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)		
		大森(文房具)	全面開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(C)		
		馬場(煙草、砂糖、油)	全面開放	格子窓5個、土壁(A)	落とし式(C)		
		丸山(和洋呉服)	全面に大暖簾	土壁にアーチ型ガラス窓(A)	落とし式(A)		写31,百101
		本間(理髪)	中央のみ開放	中央に大きな格子窓と看板、下見壁(A)	落とし式(C)	理髪店の標識のポール	
		本間(小間物)	左右に大暖簾	中央に大きな格子窓、下見壁(A)	落とし式(C)		
開進堂(書籍)		左右に大暖簾	全面格子窓、右側は張り出している(B)	落とし式(C)			
勉強館(書籍)		右1間以外開放	下見壁と全面障子窓、人の姿、うだつ(B)	落とし式(C)			
加藤(紙)		左半分開放	左3間だけ二階建て、全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(B) 右側は一階建てなので屋根と同じ傾斜			
森(和洋酒、陶器)		左1間を除いて大暖簾	塗屋、虫籠窓(B)	落とし式(C)			
上呉服町		小松(銅、真鍮)	全面開放	中央に大きな格子窓、下見壁(A)	落とし式(C)		
		加藤(茶、骨董)	全面開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(A)		
茶町	三育書籍	全面開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)			
	石橋(飴)	全面開放	土壁に二個の格子窓、左右は下見壁(B)	落とし式(C)		百111	
	中野(時計)	左右1間以外開放	下半は下見、上半は土、時計付き看板(B)	落とし式(C)		百103	
横町	神林(西洋小間物)	全面開放	全面格子窓、うだつ、雁木上に大看板(B)	落とし式(C)			
	小川(飴)	左1間以外開放	全面格子窓、妻面は下見壁(B)	落とし式(C)			
豎春日町	増田(油、蠟燭)	全面開放	土壁、二つの格子窓、雁木上に大看板(A)	落とし式(C)			
	八木屋(和洋呉服)	左右に大暖簾	塗屋、全面虫籠窓、うだつ(B)	落とし式(C)			
春日町	吉田(西洋小間物)	右半間以外開放	塗屋、大きな虫籠窓、隅に石(A)	落とし式(A)	屋根上にレンガ造時計塔	写25,百103	
	三友館(旅館)	3間のみ開放	土壁にアーチ型ガラス窓(B)	落とし式(C)	奥に蔵のような物2軒とレンガ造煙突2本		
東本町	直江町	白川(和洋呉服)	全面開放	(B)	造り込み式(下見壁、中央に大きな格子の出窓)		
		小倉(染物)	右は大暖簾、左は右1間以外開放	(B)	造り込み式(右は右半分は土で左半分は格子窓、左は全面格子窓)		
		松岡(酒)	左右1間以外開放	(B)	造り込み式(半間ごとに格子窓、上半は土、下半は下見)		

(高田2)

町名	旧町名	店名	一階	二階(屋根材)	雁木(屋根材)	その他(屋根材)	古写真
東本町	本誓寺町	藤田(油、蝋)	全面開放	(B)	造り込み式(上半は土、下半は下見、二つの格子窓)		
		内藤(薬、洋酒)	左に大暖簾、それ以外開放	塗屋、虫籠窓(B)	落とし式(B)		
	稲田鍛冶町	野田(ガラス)	右半分開放	(A)	造り込み式(下見壁、二つの格子窓)		
		中村(蝋、砂糖)	右2間以外開放	(B)	造り込み式(土壁、格子窓二つ)		
		室(書籍)	全面開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)		
		室(薬)	左右1間以外開放	(B)	造り込み式(上半は土、下半は下見、二つの格子窓)		
	鍋屋町	森(醤油)	2軒のみ開放	(B)	造り込み式(ほぼ全面に格子窓)		
		野田(石油)	右半分開放	(A)	造り込み式(下見壁、二つの格子窓)		
		川村(石油)	町家形式ではない、二階にガラス窓(B)				
		馬場(石油)	町家形式ではない、二階にガラス窓(B)				
太平社(石油、油)		中央2間のみ開放	(B)	造り込み式(下半は下見、上半は土、筋交のような装飾有り)			
坂口(鋳物)		全面開放	(B)	造り込み式(下見壁、大きな格子窓)			
		石油製造所	町家形式ではない、広い庭、二階は二階より1階向きが2区、間に1区(A)			金属製の煙突	
南本町	春日町	吉野(乾物)	全面開放	下半は下見、上半は土、妻面は下見壁(B)	落とし式(C)	角家	
		横山(陶器)	全面開放	下半は下見、上半は土、格子の出窓、うだつ(B)	落とし式(B)		
		寺崎(和洋呉服)	全面に大暖簾	左半は下見に格子窓、右半は格子出窓、うだつ(A)	落とし式(C)		
		高橋(飴)	右2間以外開放	右半間下見、それ以外格子窓、大看板、うだつ(B)	落とし式(C)		写30
	横春日町	中川(味噌)	1間のみ開放	(B)	造り込み式(下見壁、格子の出窓)		
	関町	信慶商会(薬)	左半分開放	土壁、大きな格子窓、多くの看板(B)	落とし式(B)		
		琥珀商会(ガラス)	塗屋、中央開放、上辺が弧を描く	塗屋、部厚い戸付きの窓二つ、中央に看板(B)	落とし式(B)		
		八つ滝醸造本舗(酒)	中央3軒のみ開放	大きな格子窓、下見壁(B)	落とし式(B)	背後に工場、レンガ造の煙突2本	
		池田(文房具)	全面開放	左右下見壁、中央には障子窓(B)	落とし式(C)		
	出雲町	吉川(呉服)	左右に大暖簾	右側は格子窓、左側は土壁、下半は下見壁(B)	落とし式(C)		右側と背後に蔵、バラベツ型明り取り(A)
酒造改良試験所		町家形式ではない、奥入り、妻面は下見壁、扉間土壁、ガラス窓(1区)は(C)				レンガ造の煙突	
仲町	停車場前	夕月楼(料亭)	町家形式ではない、広い庭、休息所付き(A)			雁木にガス灯	
		開運社(貨物取扱)	全面開放	妻面は土壁に格子窓、平面は下見壁に障子窓(A)	落とし式(C)	角家、妻入り、旗	
		高運社(貨物取扱)	全面開放	下半は下見、上半は土、格子窓二、妻面は下見(B)	落とし式(C)	角家、旗、雁木にガス灯	
		清養亭(料亭、和洋銘酒)	町家形式ではない、広い庭、奥の建物は平屋で半間開放、奥は2階建て(A)				
	本大工町	上田(醤油)	2間のみ開放	(B)	造り込み式(上半は土、下半は下見壁に、格子窓)	右側に蔵、屋根上(天窗上?)にレンガ煙突	
	大鋸町	田村(酒)	店部分は全面開放	(B)	造り込み式(下見壁に、格子窓)	何軒かが一つになったような町家	
	檜物屋町	山木屋(醤油)	3間のみ開放	二階は無し(A)	落とし式(A)	平屋、奥に2軒蔵、バラベツ型明り取り(A)	
	田端町	協盛社(鮮魚、四十物)	1間のみ開放	土壁に、格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)	ガス灯、2軒が一つになっている	百94
	上田端町	山口(料亭)	全面開放	障子窓、中に入(A)	落とし式(A)	ガス灯、2軒が一つになっている	
	相生町	柳絲卿(料亭)	町家形式ではない、立派な塀の中に広い庭園、2階建て(A)			金属製の煙突	写91、百14
		高陽館(料亭、西洋料理)	町家形式ではない、広い庭園、3階建ての蔵所、ベランダ(ボート付き)B			貸席の鶴鳴館、料亭の水月楼と同敷地	写89、百92
寺町	善導寺前	圓山亭(料理)	町家形式ではない、広い庭、2階建て瓦葺き、3棟(A)				
大町	下職人町	中嶋(染物)	中央だけ開放	下半は下見、上半は土、格子戸(B)	落とし式(B)	雁木が町家より長い、通りの端?	
	新職人町	今井(染物)	中央1間のみ開放	(B)	造り込み式(上半は土、下半は下見、格子窓二つ)		
その他	綿長(綿糸)	綿長(綿糸)	1間半のみ開放	全面格子窓(B)	左側が落とし式(B)、右側が造り込み式(全面格子窓)		
		近藤(綿糸)	2間半のみ開放	全面格子窓、うだつ(B)	落とし式(C)	2棟がくっついたような形	
	木田村	清水(酒)	1間半のみ開放	土壁、窓無し(B)	落とし式(B)	奥に蔵のようなもの、角家	
	鴨嶋	船崎(酒)	2間のみ開放	土壁に格子窓(B)	落とし式(C)	右側に別の建物、角家	
	土橋村	大杉(飴)	左の1間以外開放	(B)	造り込み式(半間ごとに格子窓、下半は下見、上半は土)	左方にバラベツ型明り取り(A)	

(注)協盛社は「分布地図」の上田端町にある。

(直江津、その他)

旧町名	店名	一階	二階(屋根材)	雁木(屋根材)	その他(屋根材)	古写真	
直江津港	直江津材木商会	全面開放	塗屋、虫籠窓三つ(A)	落とし式(C)			
	山田(陶器)	全面開放	右4軒だけ2階建て、障子窓(A)	落とし式(C)			
	石原(米穀)	全面開放	全面格子窓(A)	落とし式(A)	圓蔵浜に3棟の蔵有り		
	共同商会	塗屋、上辺が弧の出入り口二つ	塗屋、格子窓三つ、一版左側のはアーチ型(A)	落とし式(C)	海際なので、雁木の端を下見壁で塞ぐ		
	青山商店(貨物取扱)	右3間開放	全面格子窓(A)	落とし式(A)			
	越前屋(和漢洋酒)	右1間以外開放	(A)	造り込み式(窓無し、上半は土、下半は下見、多くの看板)	角家		
	高田蠶砂糖商会	右2軒以外開放	土壁、格子窓(A)	落とし式(C、蔵前で途切れる)	左側に蔵、高田中小町に出張店		
	矢島(蠶・砂糖)	右1間以外開放	右1間以外全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(C)			
	野崎(回漕問屋)	全面開放	右半間下見壁、それ以外全面格子窓(A)	落とし式(A)			
	金井(回漕問屋)	全面開放	左半間以外全面格子窓(A)	落とし式(C)	雁木にガス灯		
	石田(米穀)	左1間以外開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(C)	通りの端なので、雁木の片方を塞ぐ、雁木にガス灯		
	小林(回漕問屋)	右1間以外開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(C)	通りの端だが、雁木を塞いでいない、雁木にガス灯		
	古川(回漕問屋)	左1間以外開放	全面障子窓、うだつ(A)	落とし式(A)	通りの端なので、雁木の片方を塞ぐ		
	信濃屋(回漕問屋)	中央のみ開放	土壁、大きな格子窓、うだつ(A)	落とし式(A)			
	伊藤(回漕問屋)	左右半間以外開放	左右半間下見壁、中央は格子窓(A)	落とし式(C)	雁木にガス灯		
	水島(回漕問屋)	左1間以外開放	塗屋、虫籠窓三つ、うだつ(A)	落とし式(C)	雁木にガス灯		
	早川(回漕問屋)	左半分開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(A)	店の背後と、海沿いに蔵		
	小杉(回漕問屋)	左半分開放	塗屋、虫籠窓三つ、うだつ(A)	落とし式(C)	雁木にガス灯		
	清水(回漕問屋)	右2軒以外開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(A)	店一階の左の部分は蔵になっている		
	石塚(回漕問屋)	中央のみ開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(A)	左側に蔵、蔵前にも雁木、雁木にガス灯		
	山崎(宿)	右1間以外開放	左右半間下見壁、中央は格子窓(A)	落とし式(A)			
	尾澤(回漕問屋)	右1間以外開放	塗屋、部厚い戸付きの窓三つ、平入(A)	落とし式(A)	妻入り、角家、背後に大きな蔵、雁木にガス灯		
	金谷楼(宿・料理)	右側のみ開放	下見壁、大きな障子窓(A)	落とし式(A)	ガス灯、旗		
	古川(宿)	右2軒以外開放	全面格子窓(A)	落とし式(C)	雁木にガス灯		
	高橋(綿品委託販売)	全面開放	下見壁、中央に大きな格子窓(A)	落とし式(C)			
	あか屋(宿・料理)	全面開放	障子窓(A)	落とし式(左は雁木無し、右はA)	少し離れた2棟をつなく、雁木にガス灯	写86、百84	
	停車場前	古川(待合所)	図がないので不明				
		中牛馬会社(貨物取扱)	左1間以外開放	土壁、窓無し、とても低い、大きな看板(A)	落とし式(C、端を蔵で塞がれている)	旗、雁木にガス灯、右側の蔵に店内から直接入れる	
		内国通運会社直江津出張店	町家形式ではない、瓦葺き二階建て、よらい戸付きガラス窓(A)			入り口と門上にガス灯、蔵、旗	
		便利館(休息所、菓子)	全面開放	とても低い、下見壁、窓無し(A)	落とし式(A)	休息所は多角形の瓦葺き二階建て、ベランダ付き	
關連組本店(貨物取扱)		全面開放	とても低い、土壁、窓無し(A)	落とし式(C、両側は建物で塞がれていて通行できない)	雁木は通行できない、旗		
五智	桔葉館(宿・料理)	町家形式ではない、瓦葺き二階建て、庭付き(A)			ガス灯	写89、百88	
	和倉楼(宿・料理)	町家形式ではない、広い庭、瓦葺き2階建ての建物3棟(A)					
	山田津八郎(宿・料理)	町家形式ではない、広い庭、早瀬を越の間に接す、隣接している部分は開放(A)			造り込み式の変形？塞がれて通行はできない	柱にガス灯	
	瀨海楼(宿・料理)	町家形式ではない、瓦葺き二階建て、一階は土壁、二階は全面障子窓(A)			旗、ガス灯		
	清水屋(宿・料理)	町家形式ではない、瓦葺き2階建てが2棟、茅葺きが平家が1棟(A)			旗		
新井驛	清風軒(宿・料理)	町家形式ではない、瓦葺き2階建てが2棟、庭(A)			旗	百87	
	山田屋文造(宿・料理)	全面開放	土壁、右半分は障子窓、人の姿(A)	落とし式(A、左側は雁木の中に部屋を造ってしまっている)	雁木通行できない場所有り		
	池田(酒)	店部分は全面開放	(A)	造り込み式(土壁、窓無し、とても低い)	左側に蔵有り、蔵の前は雁木は途切れる		
	相場(酒)	中1間のみ開放	前面下見壁(A)		シガの煙突		
	早津(書籍)	店部分は全面開放	(A)	造り込み式(土壁、窓無し、とても低い、一部が部屋で通行不可)	通行不可の場所の前にさらに落とし式雁木		
中頸城郡	田中(酒)	全面開放	土壁に大きな格子窓(A)	落とし式(C)	左に蔵、右に隠居所風の2階建て建物(C)		
	岩方(酒)	全面開放	土壁、低い二階、窓無し(A)	落とし式(C)			
	宮崎(酒)	3間のみ開放	土壁、1間ごとに格子窓(A)	落とし式(C)			
	西脇(雑穀、水車)	右3間を開放	(A)	造り込み式、格子窓、下見壁と格子窓、下見壁と土壁			
	大鹿(煙草)	左1間以外開放	上半は土、下半は下見壁(A)	落とし式(A)			
	白川(味噌、醤油)	全面開放	全面格子窓、うだつ(A)	落とし式(A)	道の向側に蔵2棟		
	久保田(酒)	左1間以外開放	格子窓の出窓、上半は土、下半は下見(A)	落とし式(A)			
その他	土肥(漆)	町家形式ではない、屋根は上が茅葺、下が(A)瓦葺き					
	盛塩商会	1間のみ開放	塗屋、虫籠窓二つ(A)	落とし式(A)	角家		
	漁商会社	全面開放	上半は土、下半は下見壁、右に障子窓(A)	落とし式(C)	通りの端らしく、雁木の片方をふさぐ	写91	
三直楼(料亭)	町家形式ではない、広い庭、瓦葺き2階建ての建物2棟(A)						

(注1)古写真の欄について

“写” 1写真集 明治大正昭和 高田・直江津、(国書刊行会 昭和54年 上越市研究会編)

“百” 1写真集 ふるさとの百年 上越、(新潟日報事業社 昭和57年新潟日報事業社出版部編)

数字はその写真が載っているページ数を表す。

3-4 他の地域との比較

『商工便覧』には、高田、直江津以外の地区についても記載されている。新潟、長岡など、全ての商家を合計すると359軒である。

以下、『商工便覧』より、高田、直江津地区とその他の地区について比較し、その特徴について検討した。

3-4-1 業種別

表 3-8 『北越商工便覧』業種別商家数(全地域)

業種	高田	直江津	新潟	長岡	三條	その他	合計
石油	5	0	1	2	0	1	9
貨物取扱	2	4	3	1	1	0	11
宿・料亭	8	12	18	7	1	4	50
貸し座敷	0	0	2	0	0	0	2
小間物・文房具	11	0	14	5	4	0	34
書籍	4	1	2	2	1	0	10
呉服・染物	11	0	4	17	4	5	41
薬	4	0	9	7	1	4	25
陶器・漆器	1	1	10	1	0	1	14
回漕問屋	0	12	12	1	0	1	26
材木	0	1	2	0	0	0	3
酒類	9	7	5	2	0	11	34
飴屋	6	0	0	0	0	0	6
醤油・味噌	5	1	1	6	0	2	15
油・蠟・砂糖	5	2	8	1	0	0	16
その他の食品	5	4	7	7	0	1	24
その他	6	7	16	3	7	0	39
合計	82	52	114	62	19	30	359

(注) この表の直江津は表 3-8、9 の(直江津、その他)の分類と同じである。

『商工便覧』に掲載された全ての商家を業種別に分類し、表に示した(表 3-8)。

高田は全体的に様々な業種が掲載されているが、回漕問屋は1軒もない。特徴的な業種は石油と飴屋で、この二つが高田を代表する特産である。

直江津では高田と対照的に問屋業が中心で、生活に必要な衣類関係、食品関係などの小売業が少ない。流通が中心の地区といえるであろう。

新潟は掲載数が多く114軒あり、その業種は多岐にわたっている。特に宿・料亭の掲載数が多く、貸座敷を営む商家も2軒あった。また、陶器・漆器を扱う店が他の地域よりも多い。小売だけではなく、回漕業も発達しているといえる。

長岡は全62軒中、特に呉服関係業の掲載数が圧倒的に多いことがわかる。また割合として、他の地区より薬を扱う店が多いといえるだろう。

三條では19軒確認されたが、業種が少なく、小間物や呉服など衣類に関するものが中心であり、一方で食品関係が1軒もないことが認められる。

以上のことから、高田、直江津地区の特徴を考察すると、直江津は流通を中心とし、そこから高田へと商品が流れて、高田の小売業で扱われるという構造が読み取れる。新潟のように港と街が同地区にあるのではなく、高田と直江津の場合は二つの地区が合わさってはじめて新潟のような都市と同じ構造を持つといえるのではないだろうか。

3-4-2 建物の外観

表 3-9 を見ると、屋根の葺材は、ほとんどがAの瓦葺であることが分かる。町家形式の商家に限定すると高田以外は全てがAで、板葺のBがあるのは高田だけある。

表 3-9 『北越商工便覧』の商家の屋根材

地名	全体数	屋根が判別可能な商家数	屋根材			
			A	B	C	その他
高田	82	82	25	57	0	0
直江津	52	51	51	0	0	0
新潟市	114	109	107	1	1	0
西蒲原郡	2	2	1	0	0	1(茅)
中蒲原郡	5	5	5	0	0	0
南蒲原郡	3	1	1	0	0	0
尼崎港	1	1	1	0	0	0
出雲崎町	1	1	1	0	0	0
長岡	62	54	53	0	1	0
三條	19	17	17	0	0	0
三島郡	6	3	3	0	0	0
北魚沼郡	7	6	6	0	0	0
刈羽郡	5	5	5	0	0	0
合計	359	337	276	58	2	1

(注) この表の直江津は表 3-8、9 の(直江津、その他)の分類と同じである。

屋根材の点で、高田は特殊な場所である。なぜ、高田だけ瓦葺の商家の割合が低いのだろうか。高田は豪雪地帯であり、冬季には屋根に膨大な荷重がかかるので、重量のある瓦は不向きである。瓦は割れやすく、値段も高い。さらに、瓦葺の屋根は勾配が高くなるため、雪が勝手に落ちる危険性もある。また、榊原家の入府以来板葺（木端葺）にすることが慣例になっていたということも考えられる。（2章参照）

表 3-10 『北越商工便覧』の町家の形式

地名	町家形式の商家	妻入の町家	雁木のある町家
高田	73	2	73
直江津	43	1	43
新潟市	101	11	72
西蒲原郡	0	0	0
中蒲原郡	5	5	3
南蒲原郡	1	1	1
尼崎港	1	1	1
出雲崎町	1	1	0
長岡	49	33	45
三条	18	7	15
三島郡	2	0	2
北魚沼郡	5	4	2
刈羽郡	5	4	4
合計	304	70	261

（注）この表の直江津は表 3-8、9 の（直江津、その他）の分類と同じである。

『商工便覧』に描かれる町家形式の商家の数と形を、表 3-10 にまとめた。

表 3-10 を見ると、妻入りの商家の数は高田、直江津以外の地域ではかなりの割合であることが分かる。また雁木については、全体の軒数に対し、雁木のある軒数は 8 割を超えるので、新潟県下に広く普及していたものと考えられる。特に高田、直江津、全ての商家に雁木が付設されていて、町全体が連続した雁木をもっていたことが確認される。